

科目	理学療法技術演習 I	担当	林 尊弘	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

運動器疾患の膝関節全置換術後の理学療法実施を想定して、問診から検査測定のための具体的な方法と流れを学習する。演習の初回に、症例情報を提供し、そこから症例の全体像を考えて、必要な問診の内容と検査を整理し、実際的な問診、検査測定と進めていく。受講者は単関節障害であるが、症例の既往歴、併存疾患を確認し、それらを考慮した上で進める。具体的な症例を通して、リスク管理と基本的な理学療法技術の模擬実践力について修得できる。

【履修注意】

今までに学んできた各疾患の問診、検査測定を目標設定と治療計画に結びつける観点を含め、臨床状況に即した一連の問診から検査の流れを実践する。

【評価方法】

2回の実技試験と課題レポート、出席状況、授業態度にて総合的に評価する。（欠席が1/3を超える学生は受験不可）

【試験について】

実技試験を2回行う。

再試験対象者の条件：実技試験で60点未満

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

提示された症例について障害像、治療プロトコルおよび各評価ステップの技術について予習をしておくこと。

【教科書】

指定なし

【参考書】

指定なし

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	評価技術実習1	症例を想定した問診実施方法1(提示された情報からどのように問診を進めていくか、どのような内容を問診するか)
2	評価技術実習2	症例を想定した問診実施方法2(具体的な実施と注意点の確認、理学療法プログラムへの結びつきを意識した問診内容)
3	評価技術実習3	客観的臨床試験OSCE 1(問診)
4	評価技術実習4	問診実施方法の復習、まとめ
5	評価技術実習5	症例を想定した検査測定の実施1(適切な検査項目の抽出とリスク管理)
6	評価技術実習6	症例を想定した検査測定の実施2(MMT,ROM検査, ADL評価, 異常歩行分析)
7	評価技術実習7	客観的臨床試験OSCE 2(MMT,ROM検査)
8	まとめ	症例を想定した検査測定の実施の復習、まとめ
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		